

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成23年3月31日 (2011.3.31)

【公表番号】特表2006-521334(P2006-521334A)

【公表日】平成18年9月21日 (2006.9.21)

【年通号数】公開・登録公報2006-037

【出願番号】特願2006-505750(P2006-505750)

【国際特許分類】

A 6 1 K 47/44 (2006.01)

A 6 1 K 47/12 (2006.01)

A 6 1 K 9/14 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 47/44

A 6 1 K 47/12

A 6 1 K 9/14

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年2月7日 (2011.2.7)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

全く疎水性であり、水も、界面活性剤も、乳化剤も、溶剤の痕跡も全く含まず、表面を有する脂質固体粒子であって、少なくとも 1 種の疎水性蠟、少なくとも 1 種の脂肪酸及び有効成分を含み、前記疎水性蠟が 15 ～ 75 の融点を有し、且つ、前記有効成分が前記脂質固体粒子の表面から完全に除去されていることを特徴とする、脂質固体粒子。

【請求項 2】

45 までの温度で固体であることを特徴とする請求項 1 に記載の脂質固体粒子。

【請求項 3】

30 ～ 45 の融点を有することを特徴とする請求項 1 に記載の脂質固体粒子。

【請求項 4】

疎水性蠟は、植物蠟、動物蠟若しくは鉱蠟、又は少なくとも 1 種の蠟及び少なくとも 1 種の非両親媒性油の混合物であることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれかに記載の脂質固体粒子。

【請求項 5】

蠟は、0.5% ～ 99% の量であることを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれかに記載の脂質固体粒子。

【請求項 6】

蠟は、トリグリセリド、パーム油、カルナウバ蠟、カンデリラ蠟、アルファ蠟 (l a c i r e d ' A l f a)、カカオ脂、オゾケライト、植物蠟、蜜蠟、変性蜜蠟およびこれらの混合物からなる群より選択されることを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれかに記載の脂質固体粒子。

【請求項 7】

植物蠟は、オリーブワックス、ライスワックス、水素化ホホバワックス、又は無水フラワワックスであることを特徴とする請求項 4 又は 6 に記載の脂質固体粒子。

【請求項 8】

脂肪酸は、4 ~ 18 個の炭素原子数を有する直鎖脂肪酸から選択されることを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれかに記載の脂質固体粒子。

【請求項 9】

直鎖脂肪酸は、ミリスチン酸、ラウリン酸、パルミチン酸又はオレイン酸であることを特徴とする請求項 8 に記載の脂質固体粒子。

【請求項 10】

脂肪酸は、質量の 0.5% ~ 75% の脂肪酸比率であることを特徴とする請求項 1 から 9 のいずれかに記載の脂質固体粒子。

【請求項 11】

0.5 ミクロン ~ 1500 ミクロンの寸法を有することを特徴とする請求項 1 から 10 のいずれかに記載の脂質固体粒子。

【請求項 12】

有効成分を粒子に装入する能力は、粒子の重量に対して 0.02% ~ 75% であることを特徴とする請求項 1 に記載の脂質固体粒子。

【請求項 13】

- 第 1 ステップにおいて、蠟、脂肪酸および有効成分を、攪拌下で、それらの混合物の融点より 2 又は 3 高く加熱して混合し、
- 第 2 ステップにおいて、第 1 ステップで得られた混合物を、非混和性であるゲル中に分散させて、有効成分を含む脂質小滴を形成し、そこで前記ゲルは第 1 ステップで得られた混合物と予め同じ温度にされ、且つ 0.1 g / l ~ 30 g / l のゲル化剤濃度を有し、
- 第 3 ステップにおいて、分散ステップが終了すると、小滴を、混合物の凝固温度以下に直ちに冷却し、次にエタノールを含む水で洗浄し、
- 第 4 ステップにおいて、洗浄した粒子を、篩分けによって回収し、次に乾燥させることを特徴とする請求項 1 から 12 のいずれかに記載の脂質固体粒子の調製方法。

【請求項 14】

洗浄混合物中、エタノールは、1% ~ 10% の割合であることを特徴とする請求項 13 に記載の方法。

【請求項 15】

ゲル化剤は、カルボキシビニルポリマー、カラゲナン、多糖類ゲル化剤、増粘剤及びこれらの混合物からなる群より選択される流動性、非界面活性のゲル化剤であることを特徴とする請求項 13 又は 14 のいずれかに記載の方法。

【請求項 16】

請求項 1 から 12 のいずれかに記載の少なくとも 1 種の脂質固体粒子を含む化粧、医薬、獣医学的又は食品組成物。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0026

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0026】

従って本発明は、全く疎水性であり、水も、界面活性剤も、乳化剤も、溶剤の痕跡も全く含まず、少なくとも 1 種の疎水性蠟及び少なくとも 1 種の非中和脂肪酸を含むことを特徴とする、脂質固体粒子形状のガレヌス製剤系を対象とする。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0065

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0065】

次に第 2 ステップにおいて、流動化 (rheofluidifiant)、非界面活性

のゲル化剤によって調製されたゲルであって、前記混合物と非混和性であり、予め同じ温度に至らせ、かつ分散を凝結させるために十分に高い $0.1 \text{ g/l} \sim 30 \text{ g/l}$ 、好ましくは $0.2 \text{ g/l} \sim 20 \text{ g/l}$ のゲル化剤濃度を有する該ゲル中で、第 1 ステップで得られた混合物を分散させて、有効成分を含む脂質小滴を形成する。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0067

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0067】

方法の第 3 ステップにおいて、注入が終了すると、小滴を、混合物の凝固温度以下に直ちに冷却し、次に洗浄する。